

釧路港の貨物量はピークの6割以下、ガントリークレーン也大赤字

(万トン)

「これからの海上輸送はコンテナ」「ガントリークレーンがないと勝てない」といって、整備した新しいクレーン。外資コンテナ船の就航も順調に増えてきたと思いきや、減便につぐ減便。5年度は週一便でした。ガントリークレーンの使用料も大きく減りました。

実は、好調だった時も含め、単年度で見ると毎年赤字。レールの交換をした5年度の赤字は1億4800万円近くまで膨らみました。

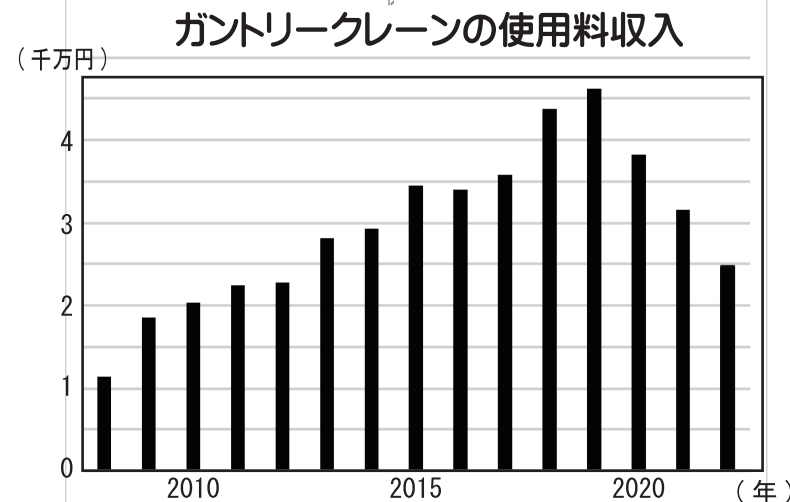


ガントリークレーン

コンテナの荷役機械（ガントリークレーン）は？

国直轄工事負担金は使わなかった予算が5億円を超える

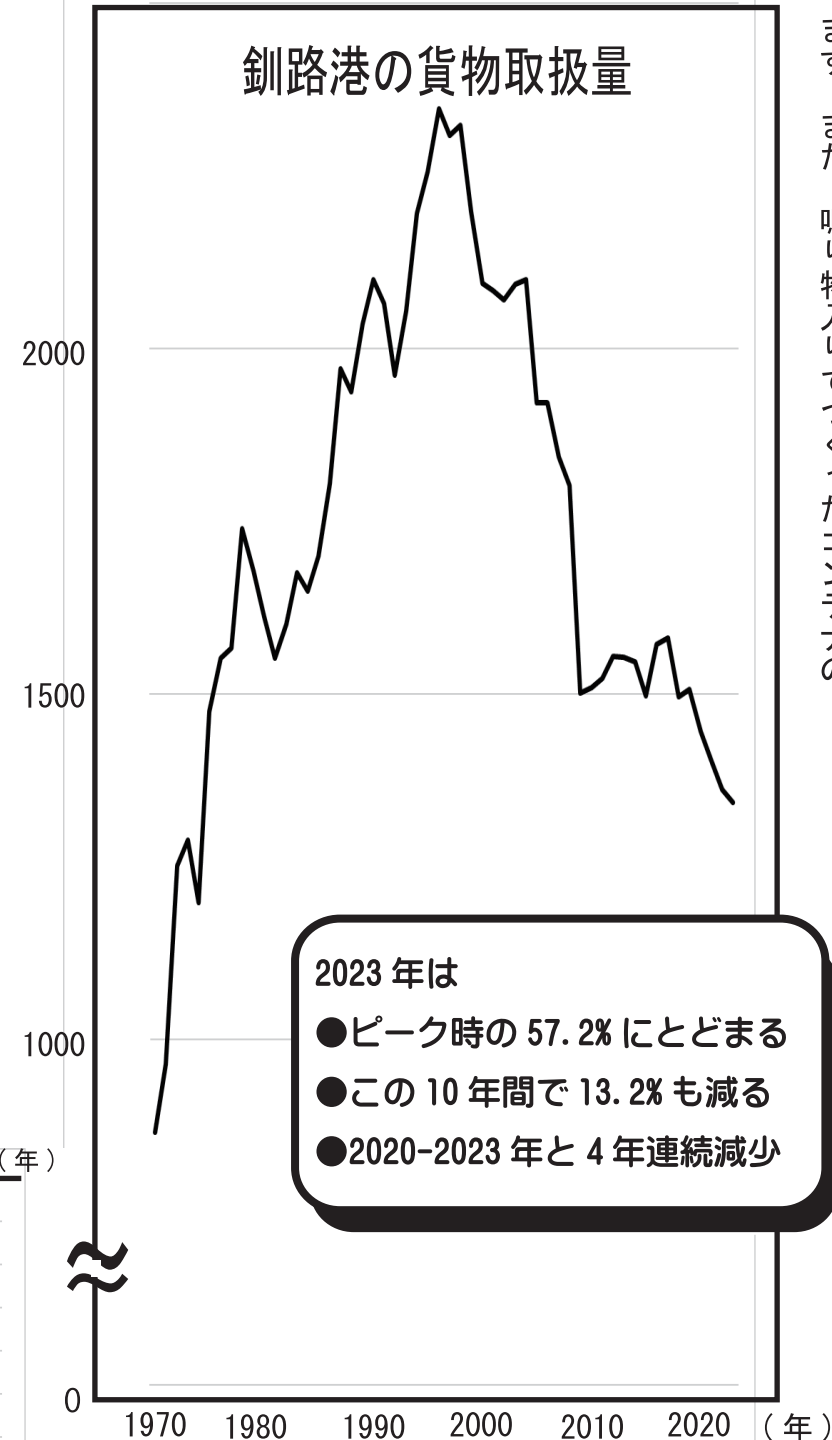
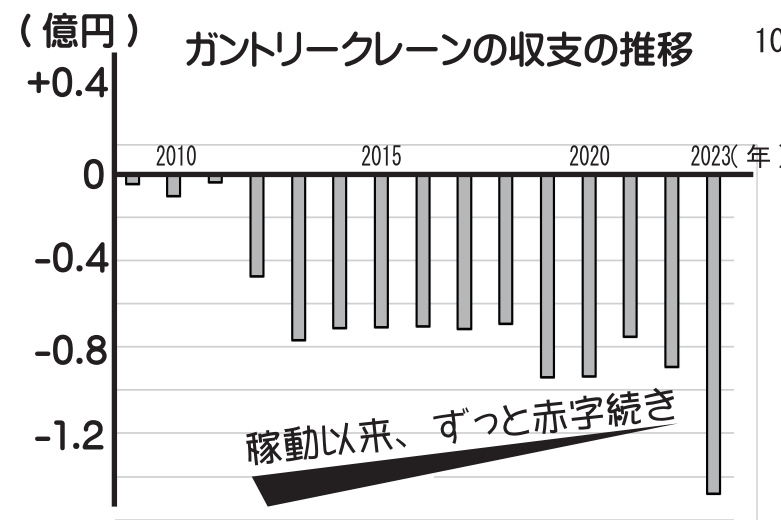
必要な額を予算で確保してしっかり使う。当たり前の財政の原則です。しかし、西港などの国の開発工事（国直轄港湾工事）は、問題があります。国直轄港湾工事は国費で行われます



が、これには市が一定額を負担することになっています。国が当初示した事業費は75億円、市の負担は11億円でした。ものすごい金額です。

しかし、実際、国が措置した事業費は41億円弱。市に「用意しろ」と負担金を確保させながら、一方的に46%も減らしたのです。そのため市の負担金5億2千万が使われず、不用額（執行残）になりました。

過大投資になっているだけでなく、市の財政運営も振りまわしているのです。



市の不要不急の大型開発の典型が釧路西港です。毎年のように多額の工事がされているのに、肝心の釧路港の貨物取扱量は大きく減少しています。また、鳴り物入りでつくったコンテナの

荷揚げに使っている「ガントリークレーン」も採算が取れません。今回は、この問題をお知らせします。